

# 月刊 社会保険 1

2018 VOL.810

一般社団法人  
全国社会保険協会連合会



平成29年度年金委員功労者 厚生労働大臣表彰  
平成29年度健康保険委員功労者 厚生労働大臣表彰  
平成30年度診療報酬改定の基本方針  
社会保障審議会医療保険部会「議論の整理」(案)  
日本年金機構からのお知らせ  
平成29年度「わたしと年金」エッセイ審査結果について  
協会けんぽからのお知らせ  
協会けんぽにおけるマイナンバーの取扱いについて

平成29年度年金委員功労者 厚生労働大臣表彰	4
平成29年度健康保険委員功労者 厚生労働大臣表彰	5
平成30年度診療報酬改定の基本方針	6
社会保障審議会医療保険部会「議論の整理」(案)	10
<b>日本年金機構からのお知らせ</b>	
平成29年度「わたしと年金」エッセイ審査結果について	13
<b>協会けんぽからのお知らせ</b>	
協会けんぽにおけるマイナンバーの取扱いについて	16
年金・健康保険委員活動報告 自然の猛威と人的弊害の傷跡	18
気仙沼ケーブルネットワーク株式会社常務取締役 小松厚	
あの人 この人 私たち 第9回 世界の女性政治家はファッションナブルに装う	20
エッセイスト 藤川鉄馬	
書評 中野剛志著『経済と国民—フリードリヒ・リストに学ぶ』	23
損をしたくない人が損をしがちな心理学 第9回 “元をとりたい!”気持ち損を招く	24
経済コラムニスト 大江英樹	
自分らしく生きる社会とは 第15回 【開催報告】介護の日セミナー	26
「わがまま」のつながり方～被災地で地域包括ケアをつくるために～	
がんばらない介護生活を考える会 中村和代・井上瑞菜	
しなやかなからだづくり 第9回 アルツハイマー病の予防戦略、ダンスと歌	28
お茶の水健康長寿クリニック院長 白澤卓二	
社会保険Q&Aシリーズ 健康保険編 30 / 年金保険編 32 / 介護保険編 34 / 労働保険編 36	
特定社会保険労務士 鈴木ひろみ	

表紙写真・竹内敏信/イラストレーション・水森亜土/デザイン・STデザイン、(有)フェイム/編集協力・(株)アップルハウス/印刷・(株)エイエヌオフセット

表紙のことば —— 竹内敏信 「光の響」「**白髭の滝**

北海道美瑛町



北海道美瑛町にある白髭の滝。ここは地元でも有名な観光スポットに今ではなっている。多くの人が足を運ぶことはとてもうれしいことである。

しかし、町は勘違いをしてはいけない。私が嫌なのは、人を集めるために滝をライトアップすることである。一見きれいに見えるかもしれない。だが、これは、滝本来の美しさに対して失礼なことである。

光の熱で雪も溶けることもある。元の風景を壊している、と私は考えている。期間限定ではあるが、その時期は外して本来の滝の美しさを間近で体験してほしい。そんなことする必要がないことが、はっきりとわかるはずである。

◎ 本誌制作にあたっては、国等からの補助金等を一切受けておりません。

# 自然の猛威と人的弊害の傷跡



気仙沼ケーブルネットワーク株式会社常務取締役  
小松 厚

●プロローグ  
今まで経験のない長く激しい揺れ。その後起こる自然の猛威にただ茫然と佇むだけでした。平成23年3月11日金曜日午後2時46分。その惨劇のはじまりでした。怒涛のごとく押し寄せる大津波は家々を押し流し、破壊し、逃げまどう人々も容赦なく巻き込んでいきました。

日が暮れると湾内に流されたオイルタンクから出た油が引火し、海面の炎は暗い夜空をまっ赤に染め、その中をちらほらと雪が舞う異様な光景があたり一面を覆っていました。夜が明けると高台の学校や会館に避難した人々が疲れ果て、諦め顔でなにごとかを囁きあっていました。街は瓦礫が散乱し、映像で見た空爆の後を思わせる悲しい惨状でした。

「東日本大震災・気仙沼」長い道のりの序章です。

私の住む気仙沼市は、宮城県の大平洋沿岸最北端。岩手県にめり込んだような地形で、リアス式海岸の景観が素晴らしく、「秋刀魚・鱈」を中心とした鮮魚・海産物の街、高級食材「フカヒレ」の街として知られています。

また、四季静穏な天然の良港は、遠洋漁船の寄港地として300トン以上の船団が湾内に係留し、魚を基幹産業とする人口6万5000人の街は、仙台圏には地図上近い割に交



気仙沼湾炎上

通の便が悪く、誰がいったか「陸の孤島」と称されます。

## ●会社紹介

当社は、気仙沼の中心地がリアス式海岸の影響で、テレビの映りが悪い難視聴の地域であることから、共聴施設として商工会議所の議員が中心となり、昭和57年に会社設立したケーブルテレビ局です。

16年後の平成10年、気仙沼市の情報基幹インフラとして、離島大島海底ケーブルを含む気仙沼全域を視聴エリアとするため、海側に放送局舎を移転しました。気仙沼市の第3セクターとして厳しい事業状況を改



K-NET被災

善する努力を重ね、地上デジタルへの移行で、ようやく事業環境が整った矢先の平成23年3月、当社も例に漏れず津波の餌食となりました。

海から1キロメートルにも満たない放送局舎は、社屋ごと根こそぎ流されました。30年という長い歳月をかけて地域とともに歴史を刻んできた「気仙沼ケーブルネットワーク」のすべてを失った瞬間でした。

1000年に1度ともいわれ「よもや生存中にこのような大災害に遭遇するとは」と思いつつ、自然の猛威のおそろしさを痛感したあの日から早6年半。当社は全国の同業各社や

関係企業のご支援のもと、市の重要な情報基幹インフラとして、国の復旧補助事業を受けながら厳しい環境を復活に向け、震災の教訓を生かし、絆で培った英知を集集し歩んでいきます。

## ●委員会活動と委員

宮城県の社会保険委員会は、6地域（仙台3カ所・石巻・古川・大河原）の年金事務所管轄内で活動しています。

私の所属する石巻社会保険委員会は、松島以北の石巻から気仙沼を結んだ沿岸地域で、東日本大震災の被災状況が全国的に報道され、支援や視察で多くの人々に足を運んでいただきました。発足は昭和35年で、石巻地区と気仙沼地区の2つの地区委員会が合同で組織され、県内では仙台に次ぎ60年の長きにわたり諸先輩の皆様が社会保険を通して育んできた委員会であり、その活動は、世代を超えともに支え合う悠久の歴史です。

委員活動の意義は、まずは研修の中から法令や実務を習得し、それを伝えること、そしてただ伝えるだけではなく、その状況にあった説明ができること、つまり応用可能な人材育成と考えます。

この応用に必要不可欠な情報収集が異業種交流です。社会保険庁廃止前の委員会では、移動研修会が多く

開催され、委員が職種に関わらず社会保険の流れや身近な諸問題を語り合い深める懇親は、私自身の人間形成に大変役立ちました。その中で培った知識は、委員活動に限らず、会社の意識改善や運営に大きく寄与してきたと思います。

特に現在は、従業員の健康管理が事業経営に大きな役割を果たしており、企業の持続的な収益性を高める「健康経営」は事業主の注目を集めています。従業員の健康管理に関わる委員活動においても、異業種交流は委員の価値を高める基礎と考えます。

また、復活した表彰制度は、委員の活動意欲の向上と社会保険制度の重要性を再認識する絶好の機会となりました。気仙沼地区委員会では、受賞した委員の祝宴として地区別研修会後に役員・理事・評議員と委員OBを交えての祝賀交流会を開催しています。祝賀会では受賞の喜びを分かち合い、OBの貴重な経験談を聞き、委員相互の交流を深め、委員活動の意義を確かめています。

以前に委員会活動の問題点として、管轄区域の年金委員と健康保険委員の委嘱状況を十分に把握できないことが支障を来たしていると本誌に掲載されていました。職域型委員にとって、社内での身近な活動は、年金よりも健康保険に関わる頻度が高く、この問題を解決することが急

務と考えます。

気仙沼地区は、企業の多くが沿岸に位置していたことから、大津波の被災により、社屋が仮設復旧等で移設分散され、住所が混在する形となり、名簿との照合が難しく、加えて健康保険委員の把握ができない状況から、今後の取組みに苦慮しています。

## ●エピローグ

私が委員の委嘱を受けましたのは昭和57年で、当時、20歳代半ばの若造でしたが、当初から年金制度の構造的危機は報告されていました。それにも拘わらず箱もの行政がはびこり、年金積立金が予算の奪い合いになったようです。結果は周知のとおりとなり、加えて年金記録の問題が発覚し、社会保険庁は解体の結末となりました。

これは、一部の人的弊害により全体に迷惑を及ぼした極めて残念な傷跡です。人の都合により組織の中で蒙った傷跡に耐えながら新しい組織で活かす苦渋は、計り知れないもの



気仙沼ケーブルネットワーク株式会社

があると思います。

自然の猛威は、人の都合など問題にしません。防ごうとしても防ぎきれない脅威です。しかし共存はできません。気仙沼の住民は、震災の大津波後も「海とともに生きる」をこころの拠り所としています。自然は長い共存の中で人のこころを癒し、痛みを取り去って行きますが、人的弊害の傷跡は癒えることなく繰り返されます。

今の委員会活動にとって大切なものはなんなのか。現在の組織で本来の活動が見えてくるのか。「長いものに巻かれる」ことなく、ひとつひとつ検証しながら委員会活動を歩んでいきたいと思えます。

（宮城県社会保険委員会連合会副会長 石巻社会保険委員会会長 気仙沼地区委員長）